

	発行者の略号	開隆堂	光村
	書名	美術1 発見と創造 美術2・3 探求と継承	美術1 美術2・3
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	全ての生徒が学び易く、確かな学力が身につく、創造性とともに国際性と郷土愛を育む教科書を目指している。また、広がり豊かな視点に満ちて、発想を広げる工夫が見られる。	見える→深まる→広がるというコンセプトのもと、授業の流れが見えるよう目標立てされている。巻末に掲載された「学習を支える資料」や鑑賞の内容や手法を充実させ、他教科とのつながりを意識した構成をし、学びが深まり広がっていくよう工夫されている。 1年生で「知識・技能」、2・3年生「思考力・判断力・表現力等」を重視した編集となっている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	○学習目標を3つの柱を基に設定し、生徒の意欲を高め、生徒に育成したい資質や能力を授業の中心的な課題として分かりやすく示している。 ①必要に応じて「美術の用語」を提示し、用語の解説も加えられている。また、題材の横断的な知識や技能について、巻末に「学びの資料」としてわかりやすく系統的に示し、多様な題材に対応できるように配慮されている。 ②学習を深めるための「学習のポイント」や「発想の手立て」を、発想や構想の方法、学習の進め方のヒントを必要に応じて示し、生徒のつまずきに配慮している。 ③美術の社会的意味や価値を考えるページを設定し、美術を学ぶ意味や目的を考える場面の工夫が見られる。また、「作者の言葉」を取り上げ、作品への興味関心を高め、作者の人となりを学ぶことができるような工夫も見られる。	○学習指導要領において示されている「資質・能力」の3つの柱で整理された、美術科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされている。 ①美術1における美術の授業のねらいや内容、基礎的基本的な表現技能、知識の習得に必要な資料、鑑賞の仕方について丁寧に提示されている。 ②制作活動において鑑賞と表現の往還をする流れとなっており、作品や題材との出会い、制作、ふり返り等の一連の活動を通して「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫と配慮がなされている。 ③暮らしに生きるデザインや現代社会の課題に触れる題材、歴史や言語といった他教科との横断的な学習資料、および特別の教科道徳と関連づけた題材が用意され、「学びに向かう力・人間性等」の涵養について工夫されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	・小学校との連携を考えた題材として「図画工作から美術へ」や「学びの地図」を巻頭に配置し、学習の質的变化に順応できるように配慮している。 ・学校外の文化財や組織、人材の活用を学ぶページの「美術館を楽しむ」では、地域の美術館との連携に役立ち、美術館の存在価値を認める学びになっている。	・小田原市の目指す子ども像「未来を創るたくましい子ども」の側面として、自ら考え表現する力の育成や、伝統工芸やデザインを通じた地域理解の題材を扱い、ふるさとへの愛着を育む内容となっている。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①3つの柱を中心に学習目標を分かりやすく提示し、教科書をきっかけに検討し合ったり、話し合ったりしながら、自分の考えを広げたり、深めたりできるような言葉かけをしている。 ②カリキュラム・マネジメントに役立つように、マークでどの教科のどのような学びに関連しているかを表示している。 ③「作者の言葉」から、作品への思いを知り興味・関心を高めると共に、自分の発想や構想を言葉で伝えることの重要性を知ることができるよう工夫されている。また、「学習のポイント」を使い、話し合う機会をつくり、生徒を深い学びへ導く配慮もされている。 ④我が国の伝統と文化及び他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことを目的として、生活を明るく豊かにする日本及び諸外国の美術や美術文化を取り上げ、身近な視点から学べるよう工夫されている。 ⑤生徒の学習風景写真や、ト書きによるつぶやき、制作途中の作品と完成品の比較を掲載し、学んだ技法や構想を体験したくなるような工夫がされている。 ⑥小学校の図画工作から美術へ、中学校の3年間を通して学習の展開に沿った流れを持つ構成から、各領域・各題材のつながりを意識している。 ⑦QRコードを用いた題材ごとの資料、所蔵先へのリンク、ピックアップアーティストファイルなど多彩な解説や資料が提示されている。 ⑧発想・構想の方法や学習の進め方などをマークで示し、具体的に示している。 ⑨3年間の学習の流れを大切に構成されている。	①学習の流れや、各題材における目標が示され、生徒自身が学びの主体となれるよう工夫されている。 ①QRコードによる多様な情報提供があり、生徒自身が個々で学びを深められるよう配慮されている。 ①生徒作品の制作過程や作者の言葉、発想の仕方や制作過程の提示や、鑑賞において教科書への書き込みが可能なページを配し、それらを活用した深い学びの実現が期待できる。 ②各題材においてその内容が「特別の教科道徳」とのつながりや他教科との横断的学習ができるよう示されている。 ③鑑賞活動を通じた作品への理解や、それらをもとにした言語活動、文字デザインなどの分野において言語能力が育成されるよう工夫されている。 ④日本の古来の美術、文化財、地域や生活に息づく色やデザインについて扱ったり、海外や現代とのつながりについて考えたりする題材の提示がされている。 ⑤素材や表現方法の紹介により、体験活動が充実を図っている。また、屋内外公共デザインにふれ、その仕組みや機能を学習する資料が用意されている。 ⑥美術1において図工と美術の違いや、美術の学びについての解説があり、円滑な接続の一助となっている。 ⑦資料を集めてアイデアを考えたり、調べたことを伝え合ったりする題材があり情報活用能力の育成を図ることができる。 ⑧漢字にふりがながふられ、識字困難な生徒にも配慮されている。また、音声による紹介や制作過程の具体を視覚的に確認できるよう配慮されている。 ⑨各ページに、「表現」「鑑賞」が示され、それぞれの関係性を確認しながら制作等の活動に移ることができる。 ⑨QRコードを活用して教科書の立体作品を多方面から鑑賞したり、掲載されたもの以外の生徒作品を鑑賞したりすることができるようになっている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①「絵画・彫刻」「デザイン・工芸」「鑑賞」の領域の学習説明から各領域の題材へバランスよく配置されている。 ②図版が大きく掲載され、見やすくなっている。 ③マークを使って、整理されている。細かい図版には、拡大表示もされ、全体と比べることができ、理解が深まる配慮が見られる。図版には各ページで図番号が付けられ、作品を示しやすくなっている。	①それぞれの項目が見開きで確認でき、配分も適切である。 ②「絵画・彫刻」「デザイン工芸」「学習を支える資料」の分野に分かれ、色分けされているので、表現分野では特にわかりやすい。 ③UD書体を使い、改行幅を大きくして読みやすい表現にしている。また、ページによって、素材の手触りや大きさが伝わるような工夫がなされている。文章表現が生徒に考えさせたり、取組を促したりするような問いかけとなっている。	
イ 教科・種目別の観点	① 生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。	①学習の意味が伝わるよう領域ごとの扉ページに始まり、学習の魅力などをメッセージで伝え、学習の流れを示し、生徒に学習の意義と方法を理解させた上で、実際の学習へつなげ、生徒が自ら学習する力を育てる工夫をしている。 3年間の学習のまとめとして、習得した資質・能力をどのように生かすべきかを考え、「美術の力を生かして社会とかかわる」という内容で自己と社会のかかわりを考える機会を作っている。	①美術1において、表現及び鑑賞についての基礎基本を示したり、美術2・3も含めた「学習を支える資料」にて題材とつながりのある内容を提示したりすることによって、見方・考え方を働かせながら表現したり鑑賞したりすることができるようになっている。また、現代社会の課題や地域に関わる美術デザイン、美術史や文化遺産が扱われており、社会の中で美術文化に関わることができるよう工夫されている。
	② 生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。	②参考図版が、作家の作品から生徒作品まであり、作風が様々なことから、自分らしく制作する楽しさを感じられるよう工夫されている。 鑑賞においては、正解や間違いがなく、感じたことや考えたことなどを自由に発言でき、豊かな情操が培えるよう工夫している。	②各題材において導入部の「鑑賞」を重視し、感じたり考えたりする機会をもてるようになっている。また、発想を広げるための手法やポイントも示されており、素材や用具の特色を活かした加工方法や、それらの組み合わせによる多様な表現について紹介され、自分らしい思いや考えを持つための配慮がなされている。
	③ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	③表現と鑑賞の学習が相互に関連するよう、マークで関連ページを示し、学習を深める工夫が見られる。 それぞれの巻末にある「学びの資料」との関連は、表現を体験することと、表現を味わうことの両方に関連し、学びを深めている。	③それぞれの題材において、「見る、感じる(鑑賞)」「表現する」「振り返る、比べる、深める(鑑賞)」の流れになっており、「A表現」と「B鑑賞」の学習内容を相互に関連させながら学びを深めることができるよう取り扱いの工夫や配慮がなされている。

	発行者の略号	日文	
	書名	美術1 美術との出会い 美術2・3上 学びの実感と広がり 美術2・3下 学びの探求と未来	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	授業で活用できるように題材のねらいを示し、言語活動や制作過程などが掲載され、系統立てて設定されていて、3年間かけて美術の学びを積み上げた構成。実物の鑑賞体験に近い造本や色味の再現になっている。生活や社会に結びついた他教科とのつながり、生活や地域とのつながりにより、美術の働きを実感的に理解し、自らの生活に生かせるよう掲載されている。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	「学びの目標」を全題材に設定。 ①造形と美術が職業との関連、生活との関連を示している。「学びを支える資料」「教科書 QR コンテンツ」で説明されている。 ②掲載作品の作者の言葉や、制作過程（情景写真、アイデアスケッチ、ワークシート）が掲載されている。 ③美術以外の分野の著名人の作品を紹介している。また、「学びの目標」が分かりやすい言葉で示され、生徒が主体的に学ぶ工夫がされている。	
	(イ) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	①制作過程や作者の思い、考えが記載され、参考にしやすい。また、身近な所の造形写真が複数記載され、広げていくことができる。「造形的視点」から、ねらいが明確で、意識が絞れ、活動知識が結び付けられている。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①実際の授業を撮影した写真が用いられ、生徒が親近感を持ち、活動に興味、関心を持つ工夫がされている。 ①「造形的視点」から、何を考え、気づかなくてはならないかが明確で、深められる。 ②国語、数学、理科、社会、音楽、特別活動、道徳と横断的な視点で、題材や事例が記載されている。 ③「作者の言葉」やアイデアスケッチを記載することで、伝わってくる思いと作品表現がより分かりやすくなっている。 ④地域文化を考えさせるうえで、伝統工芸、文化、アイヌ、沖縄の文化など、日本の伝統文化の多様性を紹介している。 ⑤活動写真が記載されている。QRコードの活用。 ⑥「となりのトロロ」からスタートし、「中学校美術の世界はようこそ」で、1年次、美術との出会い、2年次、学びの実感と広がり、3年次、学びの探求と未来へと段階を踏み、その見通しを記載することで、道しるべとしている。 ⑦実際の活用例が示され、情報モラルについても記載されている。 ⑧過程や、さまざまな発想のきっかけとなる題材が掲載されている。 ⑨「学びを支える資料」が各学年についているので副読本がなくても授業が展開ができる。	
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①盛りだくさんだが、インパクトある実物大の資料が示されるなど、興味、関心を引き出す。 ②耐水性のあるコーティングがされていて、作業していても安心感がある。 ③見出しが丸ゴシック体で見やすく、優しい。		
イ 教科・種目別の観点	① 生徒が自ら造形的な見方・考え方を働かせながら、表現したり鑑賞したりして、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わることができるような工夫や配慮がなされているか。	①教科等横断で深まる学びが、生徒の学びの広がりや知識のつながりにも配慮しつつ、道徳科との関連もさりげなく心に残る示し方や生活や地域とのつながり、共生や防災、環境のことを考えるページなどが記載されている。	
	② 生徒が自ら主題を生み出して表現したり、自ら造形的な見方や考え方を働かせて鑑賞したりできるよう、表現及び鑑賞の題材に、自分らしい思いや考えをもつための工夫や配慮がなされているか。	②作家の発想方法を紹介し、アイデアスケッチや情景写真を掲載し、作者の言葉や興味を広げるコラムを掲載することで、学びが広がる情報を得ることができる。また、作品を体感できる原寸大図版は作品の魅力が伝わる。	
	③ 「A表現」と「B鑑賞」の領域、及び、〔共通事項〕の学習内容を、相互に関連させながら取り扱うような工夫や配慮がなされているか。	③実感を伴った理解が図れるよう、折れるページや原寸大表示、全教材に知識への意識を促す「造形的な視点」の設定などにより、掲載作品から感じたこと、気づいたことを意識させ、活動と意識が結び付ける工夫がされている。	